

武庫川上流域におけるテンナンショウ属の分布

法西 浩
(川がきクラブ)

はじめに

武庫川流域で生物の調査を始めてもう10年が過ぎた。約3年前から調査の途上で観察したサトイモ科テンナンショウ属の観察記録をとり、また、その1部の標本を県立人と自然の博物館に直接、あるいは郵送で届け、植物の専門家高橋晃先生に同定をお願いし現在に至っている。先生には紙面をお借りして感謝申し上げます。今までのデータは、武庫川ネットワークの一つの会「21世紀の武庫川を考える会」の会誌「武庫川」第34号(2005)、第37号(2006)に、内容をふくらませた形で掲載している。ここまでは2種を解説したが、07年はさらに新たに1種が加わり、集大成の形で今までの記録をまとめておこうと考えた。

武庫川流域のテンナンショウ属

筆者は紫褐色のmamシグサと緑色のアオmamシグサが武庫川流域にあるのだ、という認識を持っていたが、実はmamシグサはmamシグサ、コウライテンナンショウ、ホソバテンナンショウなどを含めた広義のmamシグサ群だった。最近の研究では、仏炎苞などの形質や分布域の違いから、mamシグサ群にはいくつかの形態種が認められている。しかし、その見解から書かれた図鑑がまだないため、一般の人にはなかなか理解できない面がある。ここでは細分化した個々の種名で呼ぶことにする。

さて、武庫川流域のテンナンショウ属は4月上・下旬から開花し、6月上旬には花が終る。標高の高いところでは6月上旬に開花する。開花後まもなく朽ちはてる。雌株は9月に200~300粒の緑色の果実が実り、10~11月には紅色に完熟する。しかし、雌株は極めて少ない。

(1) ムロウテンナンショウ(写真1) 仏炎苞は淡緑色。白色のストライプが入った淡緑色の仏炎苞は清楚で美しい。舷部には内面に白色の乳頭状突起がみられ、肉眼では白っぽくざらざらしているように見えるが、ルーペではキノコ状の突起がぎっしり並んでいるのが認められる。本種は武庫川流域では最も多い。

(2) コウライテンナンショウ(写真2) 仏炎苞の色は緑色から紫褐色までみられる。武庫川渓谷で多数見られる。

(3) キシダmamシグサ(写真3) 仏炎苞は紫褐色。コウライテンナンショウに似るが、仏炎苞の先端がゾウの鼻のように長く延びる。通常ムロウmamシグサと呼ばれるが、武庫



写真1 ムロウテンナンショウ
三田市藍本越良山 2005.4.29



写真2 コウライテンナンショウ
西宮市塩瀬町武庫川渓谷 2006.4.22



写真3 キシダmamシグサ
三田市乙原黒川渓谷源頭 2007.5.4

川流域では、ムロウテンナンショウが、本種と近接してはえていてまぎらわしいので、本誌では学名にちなんだキシダママシグサとした。本種は武庫川流域では極めて少ない。また、改訂・兵庫県レッドデータブック（RD）ではCランク種に指定されている。

観察記録

<データ> 種名（仏炎苞の色）、個体数、産地、年・月・日 の順に記載。末尾の番号は図2の分布図中の番号と相応する。

- ・ムロウテンナンショウ（淡緑色）多数（写真1）三田市藍本越良山 2005. 4. 29 ①
- ・コウライテンナンショウ（紫褐色）多数（写真2）西宮市塩瀬町・宝塚市大原野武田尾
武庫川溪谷左・右岸 2006. 4. 22 ②
- ・ムロウテンナンショウ（淡緑色）多数 篠山市住山白髪岳山麓 2006. 4. 30 ③
- ・ムロウテンナンショウ（淡緑色）多数 神戸市北区鎌倉峡 2006. 5. 5 ④
- ・ムロウテンナンショウ（淡緑色）多数 三田市藍本越良山 2007. 5. 3 ①
- ・キシダママシグサ（紫褐色）数株 三田市藍本越良山 2007. 5. 3 ⑤
(①の生育地よりも谷川のさらに上部)
- ・ムロウテンナンショウ（淡緑色）2株 三田市乙原黒川溪谷源頭 2007. 5. 4 ⑥
- ・キシダママシグサ（紫褐色）3株（写真3）三田市乙原黒川溪谷源頭 2007. 5. 4 ⑦
(⑥よりも少し上部に生息)
- ・ムロウテンナンショウ（淡緑色）多数 神戸市北区道場町水久野 2007. 5. 26 ⑧
- ・コウライテンナンショウ（緑色）数株 大阪府能勢町天王川 2007. 6. 3 ⑨
- ・ムロウテンナンショウ（淡緑色）多数 篠山市後川春日大社 2007. 6. 3 ⑩



写真4 ムロウテンナンショウの果実
三田市藍本越良山 2006.9.18

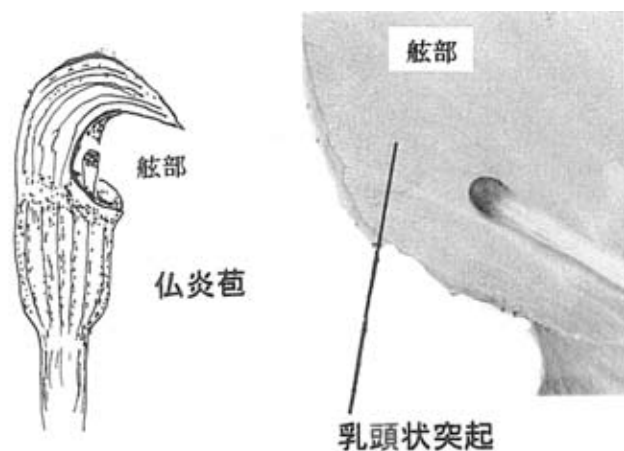


図1 ムロウテンナンショウの細部

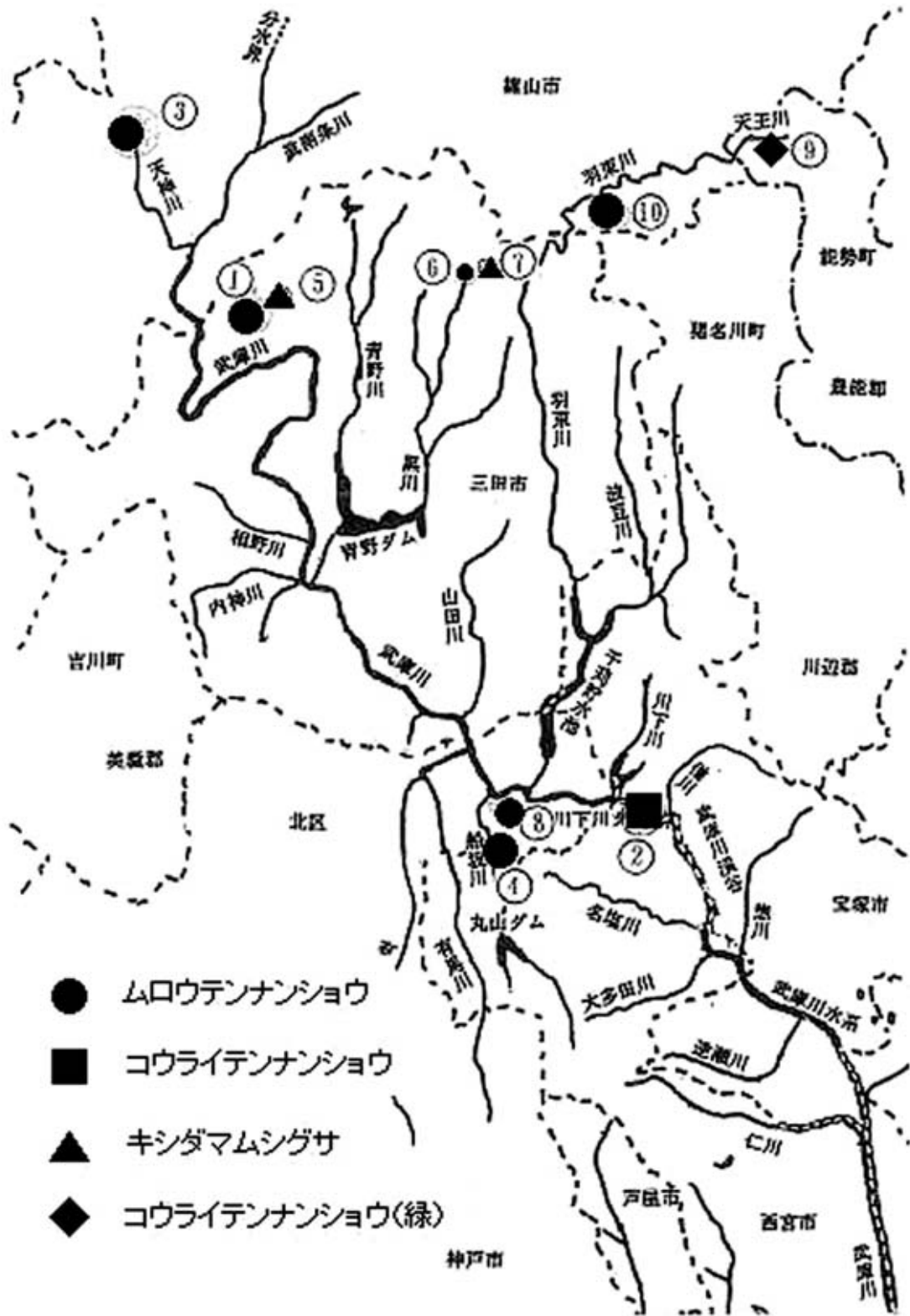


図2 武庫川流域におけるテンナンショウ属の分布

調査の概要と考察

調査の概要として大きく次の3点を述べておきたい。

- (1) ムロウテンナンショウは武庫川流域に広く分布し、その産地では個体が多い。
- (2) コウライテンナンショウは武庫川溪谷では紫褐色花が多くみられた。また、大阪府能勢町天王川では緑色花の個体が生育している。
- (3) キシダママシグサは、三田市藍本越良山、三田市黒川溪谷源頭にみられたが、いずれも個体数は極めて少い。その生育地のいずれも下部にムロウテンナンショウがみられた。では、それぞれの種の生育環境はどうか。その答えはまだみつからない。(3)で述べたキシダママシグサはムロウテンナンショウより上部のやや乾燥した場所で棲み分けているように思われる。まだ未調査の地域も多いので、今後の調査に期待したい。

まとめ

武庫川流域で、3種のテンナンショウ属の分布を確認した。その3種は、ムロウテンナンショウ、コウライテンナンショウ、キシダママシグサである。

<参考文献>

- 1) 法西浩(2005)「フィールド・レポート」三田市藍本越良山の山小屋を訪ねて(2)、武庫川第34号 21世紀の武庫川を考える会 発行。
- 2) 法西浩(2006)「フィールド・レポート」武庫川流域に生息するママシグサあれこれ、武庫川第37号 21世紀の武庫川を考える会 発行。
- 3) 兵庫県県民生活部環境局自然環境保全課編集(2003)改訂・兵庫の貴重な自然－兵庫県版レッドデータブック2003－、(財)ひょうご環境創造協会 発行。